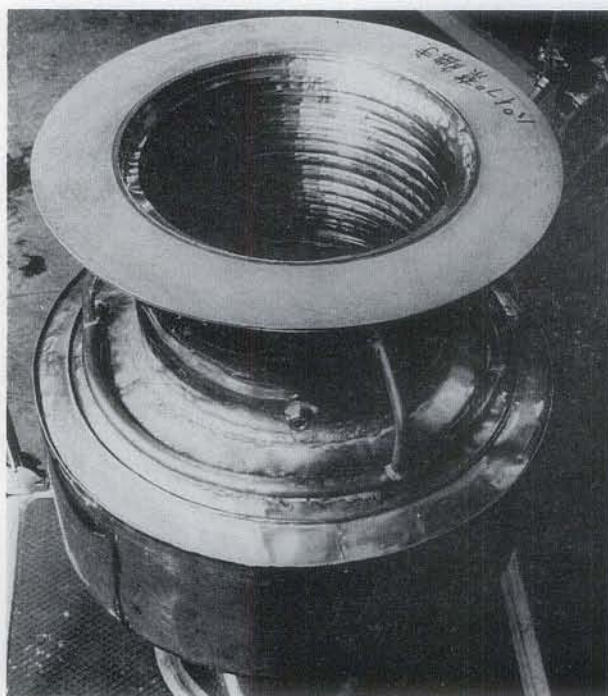


①~④ 赤外銀河光，黄道光観測装置（名古屋大学理学部）



①



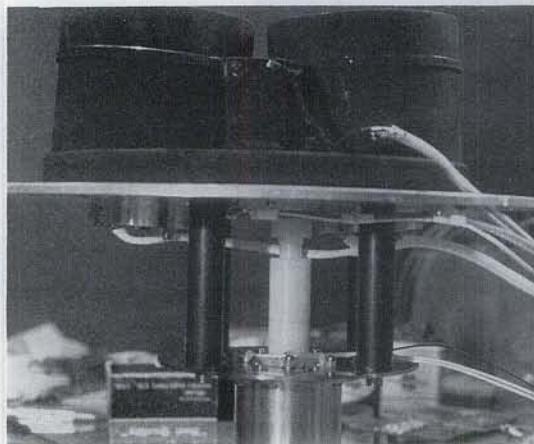
②

① 望遠鏡々筒。上から光取入れ口のバツフル，液体窒素のはいるふくらみ，望遠鏡本体の収納部。

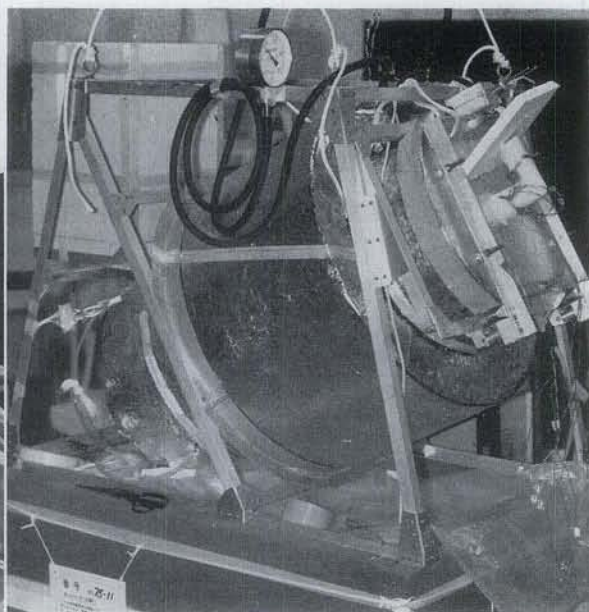
② 鏡筒に断熱材を張る。下部に③の本体が収まる。

③ 望遠鏡本体，口径 10cm，F/0.8 のシリコンレンズ 2 組で，2.4，5.2 μ の領域を観測する。

④ 組立てた装置。望遠鏡は仰角 30° に固定，前面には蓋がしてある。



③

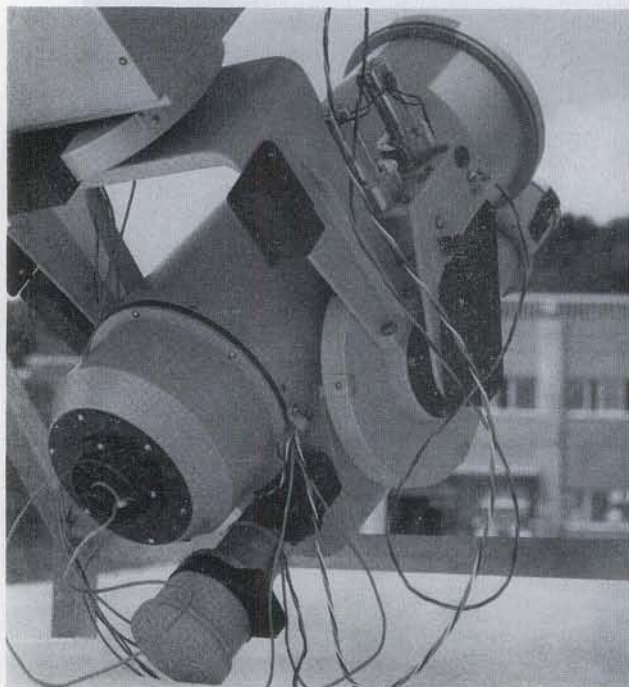


④

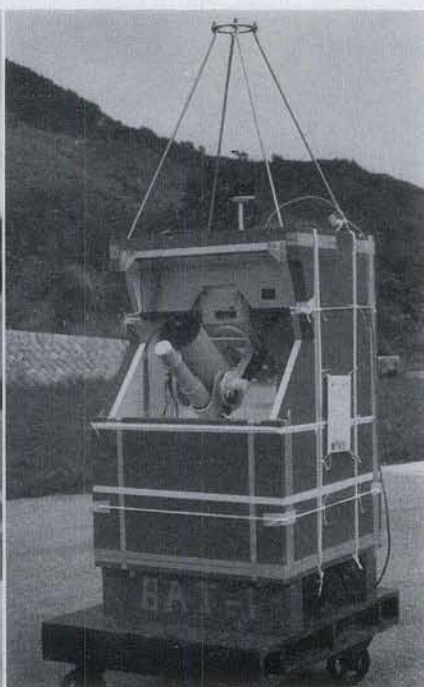
赤 外 観 測 装 置

⑤⑥ 恒星の赤外スペクトル観測装置 (東京大学理学部)

⑦⑧ 赤外夜光, 銀河赤外線観測装置



⑤



⑥

⑤ 赤外用望遠鏡は口径 15 cm, 焦点距離 180 cm, カセグレン式, PbS 領域の多色測光をする。ガイド鏡は口径 5 cm 屈折

⑥ 装置全景。望遠鏡は極軸からつり下げている。

⑦ 懸架テスト。黒い部分が望遠鏡で、たてながの白い四角は開口部の蓋、内部に仰角可変の平面鏡と、口径 20 cm の主鏡がある。検出器は PbS。

⑧ 酒田港沖で発見された回収直前の装置。



⑦

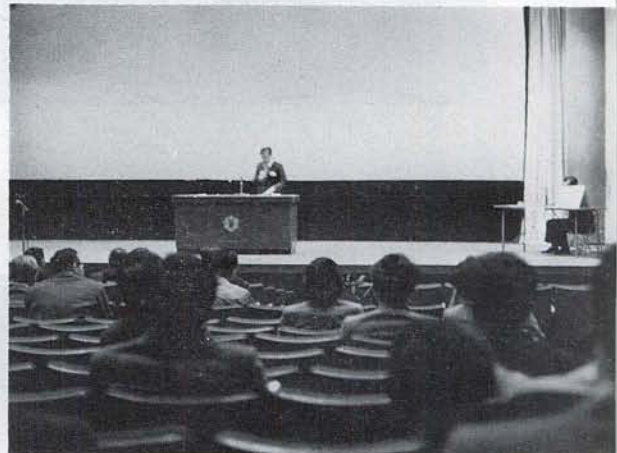


⑧

◀ 全員による
記念写真



▲ 受付風景



▲ 年会会場



▲ サッポロビール園における懇親会



▲ 会場のクラーク会館入口